

群馬抑制廃止研究会だより

~Gunma Yokusei Haishi Kenkyukai~

平成29年1月号 通算第26号



謹賀新年



群馬抑制廃止研究会 会長 加藤 綾子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は会員の皆さまより温かいご支援やご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度は 群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金による研修会「認知症ケア研修（基礎編・中堅編）」を5回予定しておりますが、昨年中既に3回が終了いたしました。毎回多数のご参加をいただき大変嬉しく思っております。研修会の会場は熱気がこもり活発な議論が展開され、実り多いものにできたと自負しております。こういった活動は、利用者の方々に幸せな時間を過ごしていただく一助となると信じております。残り2回の研修会もさらにパワーアップして開催したいと思っております。ご期待下さい。

ところで、最近「アンガーマネジメント」という言葉をよく耳にします。「衝動的な怒りの感情や苛立ちをコントロールするための教育プログラム」として研修会等が活発に行われるようになりました。看護介護現場では認知症の対応に苦慮する場面に出くわすことがあります。認知症の周辺症状には「徘徊・暴言・暴力・妄想・幻覚・異食・過食・不潔行為・失禁・作話・抑うつ・不穏・睡眠障害」等が挙げられます。これらは基本的には中核症状に様々な要因が加わって出現するものですが、介護者との関係性が影響し、介護者側の心理的ストレスなどによる不適切なケアが周辺症状を悪化させている場合もあります。私たち専門職にとって、これは絶対にあってはならないことです。私たち専門職が求めるものは、ご利用者の穏やかな生活を取り戻すことであり傷ついた心をケアすることです。介護者も傷つき葛藤することがあると思いますが、専門職としての誇りを持ち、揺れ動く感情を落ち着かせ、理性を働かせて仕事をしていきたいものです。自分の怒りや苛立ちをできる限りコントロールし困難な状況に負けず、目の前のご利用者のために力を発揮していただきたいと思っております。

来年は医療・介護の同時改定があります。その前年にあたる今年はいろいろ動きのある年になりそうです。看護介護現場で日々奮闘される皆さまとともに、より一層学びながら高齢者ケアを高めていけたらと願っております。本年も変わらぬご支援とご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。また、皆さまのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

平成 28 年度 役員紹介

会 長

特別養護老人ホーム アミーキ
施設長 加藤 綾子

副会長

角田病院
地域連携課 相談課 小林 一幸

当研究会は、身体拘束廃止に向け研修会などを行っています。その研修会などでの情報を各病院や施設に戻りそれぞれ「身体拘束廃止」に向けた業務改善や取り組みを行っていることと思います。ただ、まだまだ身体抑制と知らず拘束してしまっていることもあるのではないかと思います。

今年は会員施設を増やし、群馬県内での取り組みを広げていきたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。



伊勢崎市議会議員
障害者施設ぶどうの木 理事長
森田 修

群馬抑制廃止研究会で、いままで皆さん方に現場の声を聴かせて頂いて感謝しています。人を扱うということは、人の心を読んで、その人にあった対応をしていき、何とか状況や現実に合わせていくのです。私は、政治の道を志してきました。どのようにしたら、みんなが満足してくれるのか。簡単な解答はありません。政治学という教科書にも「政治は個別的問題に対する個別的な解決」というのです。数字のような答えはないのです。個々の人はこうしてくれ、ああしてくれと好きなことを言います。全部が上手くいくことはありません。同じことを、皆さんがやっていると思うのです。対応の難しい認知症という方を相手にしながら、話を聴き、してほしい方向に向けていく。介護していて、ストレスがたまるとかな。我慢しすぎて、はねてしまわないかとも思います。みなさんの考えることが、新たな解決方法を生むかもしれません。自信を持って立ち向かおうではありませんか。

監事

特別養護老人ホームアミーキ 介護看護課 主任 小林 澄昌

今年も群馬抑制廃止研究会における高齢者虐待や身体拘束廃止に向けた研修や取組みに微力ながら協力させて頂きたい所存です。

認知症高齢者へのケアと抑制廃止への視点は切り離すことができないテーマであると研究会を通して実感できました。認知症高齢者はいつでも不安な状態であること、その不安を職員に伝える術が分からないこと、認知症高齢者の不安がくみ取れない職員は不適切な対応をしてしまうこと、結果、認知症高齢者の不安が悪循環してしまうこと。その悪循環がエスカレートすると抑制や虐待につながり最悪の場合、事件・事故を招いてしまうのです。

丁寧に利用者に寄り添い正しいケアをしている職員の方が絶対に多数でありながら、一握りの不適切ケアや間違った介護観の職員により介護職のクオリティを判断されるのは非常に悲しいことです。

人生の幕引きに向かっている高齢者が最期まで“自分らしく”過ごせる様に“プロの黒子”としてあるべき姿を研究会を通して皆さまと共有、連携を確立させたいと思います。今後も皆さまの御協力よろしくお願ひ申し上げます。

元群馬県議会議員 中村 紀雄

混乱と変化が加速する中で、抑制廃止研究会の役割が増えています。超高齢化が進む中で抑制や虐待の問題が多くなっているからです。これらの根本には、人間の尊厳を確保すること、つまり基本的人権の尊厳の問題があります。人命軽視が酷くなるような社会状況が進む中で、今年は、力を合わせて私たちの役割を果たす年にしたいと存じます。

県議会議員を辞して今年二年目に入ります。長い県議時代の経験を少しでも活かすことが私の使命と考えています。長い行政との関わりで感じたことは人権の重要さでした。そのような意識もあって、小説「死の川を越えて」の連載を上毛新聞で開始致しました。ハンセン病をテーマにした人間ドラマです。ハンセン病はかつて癩病と言われ、恐ろしい伝染病とされ罹患した人は悲惨な人生を迎えました。無知が差別と偏見を生み、それは国の誤った政策と合まって、社会によって人間性を無視される過酷さは正に地獄の状況でした。今日この病は克服されましたが、差別と偏見は形を変えて現れる永遠の課題です。月・火の週2回で約1年続きます。お読み頂ければ幸いです。皆様のご健康とご多忙を祈念致します。

幹事

介護老人保健施設めぐみ 支援相談員 新井 寛之

介護老人保健施設めぐみ、支援相談員の新井寛之です。私自身、介護業界に身を置き15年が経ちましたが、以前と比べ道具を使っただけの抑制は、ほとんど見かけなくなりました。しかし、言葉による抑制は、してはいけないと分かっているにもかかわらず、心に余裕が無くなると、どうなのでしょう。

常に人手不足が叫ばれておりますが、現在、ケアを受けていらっしゃる方が、安心して過ごしていただける様に、努力して参りたいと思いますので、若輩者ではありますが、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

ご家族代表 小此木 一志

先ずは明けましておめでとうございます。
心身の健康に留意し、今年も健やかな一年で過ごしましょう。

暇爺の両親は長命で、父親は八十歳から認知症を発症、十年間病院や老人保健施設にお世話に成り九十歳で天寿を全う。

母親は今九十四歳、要介護 3、足腰が弱まり、一人では入浴も排泄も叶いません。時々意味不明な話をしますが息子や嫁、孫は認識できます。現在ショートステイでお世話に成っておりますが、月に 3~4 日の自宅療養。

暇爺夫婦は定年退職後のお気楽人生かと思いきや、そうは問屋が卸してくれませんね。介護の負担やアレコレと厄介な事案勃発、マイナス思考が優先し身動きが儘ならない現状です。家での介護は女房任せ、屋内での移動や食事補助はできますが、親とは言え息子が母親の下の世話はね。正直、女房には、頭が上がりません。事細かに書かなくも高齢者や認知症の介護の厳しさは皆さま十分ご承知かと。お金と時間とメンタルとアレもコレも余裕が無いとね。其の事が原因で、アレコレ悲惨な状況も散見する現状です。

子の責務だ、我慢、辛抱と先の見えない時を過ごしているのは、介護者自身も自律神経に悪影響が出、家庭内での不協和音が増幅しかねません。我が家では、揃っての長旅は叶わないので、日帰り温泉、孫に会いに、其々が趣味を、時々外食と気分転換を図り、家庭崩壊に成らぬよう心掛けております。又ご近所に同じ様な境遇夫婦が 2 組有り共に語らい、気を紛らわせております。

介護現場での皆様のご協力には感謝です。施設利用者其々の症状が違う、対応も個々に違い、厳しいお仕事内容で、皆様方の日々のご苦労には頭が下がります。此れから笑顔絶やさず、誠意を持って職務の遂行をお願い致します。



群馬県議会議員 介護老人保健施設銀玲 相談室長 金子 渡

昨年は介護施設職員による入所者への虐待報道が多くありました。人員不足の中で介護職員がオーバーワークになっているとの指摘もありますが、経験不足、知識不足も要因にあります。講習や会員施設での先進事例の発表、グループディスカッション等を通じて認知症ケアや個別ケアへの理解をより深めていくことが、抑制廃止研究会の重要な役割だと改めて感じています。

当施設では、昨年の外部講師による新人職員接遇研修の実施にあたり、近隣介護施設、9 法人・16 事業所と合同で行いました。一事業所ではなかなかできない取り組みも一緒になればできます。また、ユニットリーダー研修や喀痰吸引研修が対象となる助成金を申請し支給を受けました。今年は在留資格や外国人技能実習生の制度も大きく変わります。研究会でもさまざまな情報を会員間で共有し、職員のキャリア形成や安定した事業所運営に役立てられるよう取り組んでいきたいと思っています。加藤会長を先頭に一年間頑張っていますので、本年も研究会運営への皆様のご協力をお願いいたします。

介護老人保健施設アルボース 看護介護部 主任 木村 聡

利用者本位のより良いケアを目指すためのプロセスとして身体拘束廃止があります。私共の施設では、認知症の重度な入所者を受け入れ、困難事例を多く抱えています。そのような状況であっても、安易に身体拘束に頼らない現場職員を誇りに思います。

介護現場では、高齢者の尊厳やその人らしいケアが求められます。その実現のために私たちは、しっかりとしたアセスメントと対応策を議論し、ケア方法を導き出す必要があります。これがケアの基本だと思います。

今年度も皆さんと共に、研究会の活動を通じて、より良いケアの実現を目指して考えて行ければと思います。

介護老人保健施設うららく リハビリ室 室長 佐藤 由子

昨年は、日常業務の中で抑制せざるを得ない状況を目にしても解決策を見いだせないことがあり、反省の年でした。また、役員としての仕事も殆ど行えず、申し訳ありませんでした。老健の入所者の中に、独居の認知症で家族や近隣の方たちとトラブルになってから施設利用となり、関係を修復できず帰るめどが立たなくなっている方がいらっしやいます。そのような状況になる前に、地域で支える力をつけ、認知症になっても安心して暮らせる社会を作っていくなくてはならないと感じております。誰もが、認知症を理解し、一人ひとりの人権を尊重する意識をもつことが、認知症の早期発見につながり、抑制廃止や認知症進行予防につながると思います。今年は、そのようなことに、少しでも貢献できればと思っています。本年もどうぞ、よろしくお願い致します。

美原記念病院 リソースナース室 室長 清水みどり

昨年、私が所属する美原記念病院では、群馬県の委託を受け、認知症疾患医療センターが稼働しました。また病棟では、認知症ケア加算が認められ、質の高い認知症ケアが評価されるようになりました。

抑制と認知症疾患は密接な関係にあります。職員に認知症疾患の病態理解がなく、かつ、劣悪な職場環境では、認知症の患者ひとり一人に向き合う時間はありません。それによって“抑制”という手段がとられてしまう場合も、医療現場では少なからずあるのです。

そこで認知症疾患の病態を理解し、認知症を呈する病にあっては、歩んできたその人の人生が尊ばれ、その人らしく生き切れるように支援していく術を、日頃から職員にお示しする必要があります。その方法は、自ら認知症ケアを実行し示すことや、研修の場面で共に考えることでしょうか。

微力ながら私も、群馬抑制廃止研究会の一員として、今年も皆さまのお役に立てれば幸いです。

介護老人保健施設アルボース 看護介護部 師長 滝原 典子

今年度より役員に加えて頂き、研修事業にも微力ながら協力させていただいています。

抑制廃止という言葉の真意は、質の良いケアの提供であり、一人ひとりを尊重した尊厳ある対応だと思います。

実際の現場にいると、思うようにいかない現実もあります。私も同じような思いを何度も経験してきました。しかし、その時こそ現場スタッフがその人らしいケアを提供するためにどうしたらよいか話し合うことが大事だと思います。大げさに言えば、現場スタッフの考え方・対応一つで、高齢者の残りの人生を変えてしまうかもしれないということを認識しておかなくてはなりません。つまり、建物や設備といったハード面に頼るのではなく、実際にケアをするスタッフ一人ひとりがご利用者にかかり寄り添ったケアを提供できるかというソフト面の充実が必要だと思います。

介護老人保健施設大誠苑 事務長 角田 匡哉

私は昨年度より群馬抑制廃止研究会、役員という大役を仰せつかりました。務まるかなと、不安でいっぱいなのですが、みなさまのご意見やご要望をうかがいながら、精いっぱい頑張りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。最近では高齢者虐待という痛ましいニュースが世間で報道されています。虐待なんてことは起きてはならないことです。高齢者の生活を支えていくためには専門性を高め、より良いサービスや支援の提供をして行かなくてはなりません。そのためにも日々様々な場面から学び知識や技術の向上に力を入れて行かなくてはなりません。

群馬抑制廃止研究会は私達のスキルアップへの近道だと私は思っています。今年も多くの方々の研修会参加をお待ちしております。共に成長し介護業界を盛り上げて行きましょう。また情報交換や共有することで横の繋がりも深めていけたらと思っています。本年も変わらぬご支援とご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

特別養護老人ホームくやはら 相談員 牧野 寿男

当苑が所属する大誠会グループではこれまで、身体拘束を廃止するために様々な取り組みを行ってきました。困難なケースもありましたが、医師、看護師をはじめとする多職種のチームで知恵を出し合い、様々な工夫をしてきました。拘束しないケアが実現できると、患者さまの表情が和らぎ、自然と笑顔が見られるようになります。この笑顔こそ、身体拘束廃止に取り組んできた努力に対する患者さまからのご褒美であり、私達の原動力となるものです。これまで群馬抑制廃止研究会で開催される様々な研修会や勉強会に参加させていただき、私自身も知識を得、同業の皆さまとの交流を通じて個人的にも成長することができたと感じています。これからも多くの施設で患者さま、ご家族さまの笑顔がすこしでも増えていくように、微力ではございますが今後も様々な活動に参加させて頂ければと存じます。

介護老人保健施設鶴寿園 4階看護主任 森田 雅美

当施設におきましては職員一同、日々仕事に精進して過ごしておりますが、ご存知の通り昨年は相模原の身障者施設で元職員による傷ましい殺傷事件が発生し、とても衝撃を受けました。この他にも様々な原因で、施設での事故・事件がとりだたされています。実際、慢性的な介護スタッフの人員不足、認知症の方の重症化、利用者様の長期在所型から在宅強化型へと労働環境の変化に伴い、介護力不足が深刻化しております。これらによりスタッフの身体的・精神的ストレスが入所者の方々に向けられる事のないよう介護環境の改善、スタッフの質の向上を目指していきたくと思います。身体拘束廃止委員の一人として、微力ではありますが経験豊かな他の職員の方々と一緒にさせて頂き、活動に参加して参りたいと考えております。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

以上、五十音順

会員施設 紹介

このコーナーでは、会員施設からいただいた抑制廃止の取り組み状況を掲載いたします

【公益財団法人 脳血管研究所 美原記念病院】

美原記念病院における、抑制廃止に向けた活動をご紹介させていただき、私はリソースナース室 認知症看護認定看護師の清水です。よろしくお願いいたします。

美原記念病院は脳卒中を主とした脳疾患の専門病院です。そのため、患者さんの中には発症後間もなく“せん妄”という混乱を来しやすい方が多くいます。せん妄は脳の急性混乱ですが、今置かれている自分の状況が理解できず、不安を抱くことで助長されます。せん妄になると、転倒や大切な点滴やチューブ類を抜いてしまう危険があることから、患者さんの身体の動きを抑制してしまうようなことが起こり得ます。ですから、抑制しないためにはせん妄を起させないことが重要になってくるのです。

そこで、患者さんとなじみの関係を築き、無理なく現実感覚が戻るように働きかけ、不安を与えないよう配慮しなければなりません。優しい笑顔で自己紹介をした後、患者さんに洗顔や歯磨きをしてもらっています。日常の朝の行為を行って、現実感覚を取り戻せるようにしていきます。朝の行為から現実感覚を取り戻すと、患者さんの混乱や不安は徐々に和らいでいきます。また不安を与えやすい医療器材に関しても、過度に患者さんの目に触れないような工夫をしています。入院してきたばかりの患者さんであっても、安心して過ごせるようにすることで、せん妄が生じないようにし、結果として抑制がないようにしているのです。

地道な毎日のせん妄予防への取り組みが抑制廃止につながり、更に“ケアの質の向上”につなげられるよう、これからも活動を続けていきたいと思っています。



平成 28 年度 群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金による研修 「認知症ケア研修(基礎・中堅)」の開催について

群馬県内の高齢者施設における認知症ケアの質の向上を推進するために行われる研修会です

【開催日程】

第1回	(基礎研修)	日時：平成 28 年 10 月 13 日 (木) 13:30～16:30
第2回	(中堅研修)	日時：平成 28 年 11 月 19 日 (土) 13:30～16:30
第3回	(中堅研修)	日時：平成 28 年 12 月 17 日 (土) 13:30～16:30
第4回	(基礎研修)	日時：平成 29 年 1 月 21 日 (土) 13:30～16:30
第5回	(中堅研修)	日時：平成 29 年 2 月 18 日 (土) 13:30～16:30

【研修内容】

～基礎研修～

1. 講義①「認知症高齢者に対するケアの質の向上について」
2. 講義②「抑制廃止を実践するための基礎講座」
3. グループディスカッション「抑制廃止に関する事例検討」
※ 平成 27 年度に行った研修内容と同様になります

～中堅研修～

1. 講義①「抑制廃止と虐待に関する概論 - 高齢者虐待について - 」
内容 ・ 高齢者虐待防止法の目的と特徴について
・ 高齢者虐待に対する、養介護施設従事者等の責務について
・ 高齢者虐待及び不適切ケアを未然に防ぐために
2. 講義②「認知症の人のケアに対するリーダーの役割
- スタッフのやる気を起こすために - 」
内容 ・ リーダーに求められる資質、能力、行動とは
・ 人材育成のための具体的な方法について
・ スタッフにやる気を持たせるための方法について
3. グループワーク「ケアの現場の事例を含めた討論」
内容 ・ 過去に実際に起きた「虐待事件」の事例に対し、
事件の背景や原因などを分析&検討する
・ 現場のリーダーという立場から何がきるかを考え
具体的な方法や手段を検討する
・ まとまった意見を模造紙に書き写し発表する



賛助会員施設一覧 (五十音順)

★特別養護老人ホーム

あじさい園	アミーキ	ヴィレージュ	桜桃園	ことぶきの郷
ホピ園	ゆたか			

★介護老人保健施設

赤城苑	旭ヶ丘	アルボース	いずみの里	ウエルライフ三愛
うららく	鬼石	金山	銀玲	クララ・トーホー
群馬中央病院附属	ケアピース	宏愛苑	ココン	聖寿園
大誠苑	たまむら	ふじあく光荘	武尊荘	まゆ玉
陽光苑	ラポールレイゾン			

★病院

伊勢崎福島病院	黒沢病院	駒井病院	須藤病院	角田病院
鶴谷病院	東邦病院	富士ヶ丘病院	美原記念病院	吉井中央診療所

★その他

株式会社ヴァティー				
-----------	--	--	--	--

◆随時会員募集中

入 会 随時受付。個人会員と施設単位などでご入会いただく
賛助会員がごさいます。

会 費 個人会員 年会費 1,000 円 入会金 1,000 円
賛助会員 10,000 円

入会のお願い

群馬抑制廃止研究会が設立して 16 年目を迎えることができたのも多くの方のご理解とご協力によるものだと思います。現在、管理者から現場のスタッフまで様々な職種の方が会員として参加して下さっています。皆さまそれぞれの立場で大変な努力をされていることと存じます。その思いを実らせて更に活動の輪を広げていくことが大切だと思います。多くの皆さまのご入会をお待ちしています。

群馬抑制廃止研究会事務局

発行：群馬抑制廃止研究会広報委員（森田・木村） 事務局：（能見・木村）

〒372-0006 群馬県伊勢崎市太田町 427-3 TEL 0270-21-2700 FAX 0270-21-2704

<http://mihara-ibbv.jp/arbos/control/> → 情報発信 → [群馬抑制廃止研究会](#) をクリック